

私たちを取り巻く“生きづらさ”を解きほぐす
～これまでの社会の“ふつう”を問い直すことから～

府立人研通信

大阪府立学校人権教育研究会

第11号

2025年2月28日発行



第44回 研究集会のご報告



こんにちは、府立人研事務局です。府立人研通信第11号では、1月31日(金)に市岡高校で行われた「研究集会」のご報告をさせていただきます。今年度も多くの方に府立人研の研究交流活動に参加していただくことができました。ありがとうございます。来年度もみなさまにお会いできることを楽しみにしています！ 今後ともよろしくをお願いします。



第44回 研究集会

いま

児童・生徒たちの生きる現実をとらえ直す学校・社会の創造

～つながりを未来へのチカラに～

日時：1月31日(金) 10:00～17:00

会場：府立市岡高等学校

午前 全体会

“学校らしさ”を超え、これからの学校の可能性を拓く

講師：盛岡 栄市さん（大阪市立心和中学校 校長）

文部科学省「2023年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」によると、不登校の小・中学生が過去最多の34万人余となり、子どもたちを取り巻く環境の変化にいち早く察知し、早期発見、未然防止をしていくことが急務である。誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOLOプラン」の学びの多様化学校の設置として、心和中学校は誕生した。

昼間部と夜間部の2部制、全教科教職員2名配属、スクールカウンセラーの週5日配置、総合の時間を活用したSelf-Quest（学びなおしの時間）等が特徴である。当初、校則はなかったが、生徒からの声で授

業の調べ学習時はスマホではなく、一人一台端末を使用という校則が出来上がった。また、生徒たちの1日の過ごし方の例が複数提示され、様々な登校ス



タイトルがあることが伺えた。盛岡栄市さんは、毎日登校してくる生徒の成長が一番大きく、登校パターンの複雑化により学習の定着に差があることも課題であるという。少しの時間でも学校へ来て、いろいろな人と触れ合うことが大切だと語っておられた。昼間部と夜間部の合同授業もあり、10代から80代といった世代を超えた学びの輪もある。

生徒の多くは自己肯定感が低く、発言や教職員から当てられることを極度に嫌がるため、意思表示ツールを使用するといった工夫がなされている。その中でも様々な工夫がなされている。例えば、机の上の囲いにフックが備え付けられており、そこに【ヘルプ】【チャレンジ】【そっとしておいて】の3つのカードの中から生徒が選ぶというものだ。

多様化している生徒の課題解決に向け、生徒選択によるチューター制、月1回のお楽しみ会、企業との連携や地域交流、長期休暇でも子どもたちと触れ合うためのイベント等多岐にわたる取り組みを行っている。学校としての子どもファーストの姿勢と絶対に諦めない努力が相まって、「心和中に転入して良かったですか」のアンケートは97.6%という結果につながっている。

心和中学校のように、不登校をマイナスではなく、1つのターニングポイントとしてプラスに捉え、生徒の中に入って心の機微にも気づける関係づくりが一番大切だと、大きな学びとなった。

談企画であった。対談の内容は、おたさんの著書『学校に染まるな！ バカとルールの無限増殖』（ちくまプリマー新書）をもとにしている。学校の役割から、教職員の役割、公教育の役割、受験について、不登校について、教育と社会のかかわりについて、教育格差や体験格差の議論まで、縦横無尽に語り尽くしていただいた。ふだん学校を中から見ている教職員の視点を相対化する機会となった。対談の中での言い淀みや、言い間違い、沈黙等、言葉にならない部分に臨場味があり、ライブ感溢れる貴重な対談であった。



第1分科会

『学校に染まるな！』

～「理想の学校」なんていない～

対談：おた としまささん
 (教育ジャーナリスト)

池田 拓也さん
 (灘中学校・灘高等学校)
 大阪府教育センター附属高等学校
 府立布施北高等学校

第2分科会

こどもアドボカシーについて考える
 ～こどものエンパワメントや
 レジリエンスの視点から～

講師：中村 みどりさん
 (Children's Views & Voices 副代表)



学校取材のスペシャリストである教育ジャーナリストのおたとしまささんにお越しいただき、灘中学校・灘高等学校の池田拓也さん、大阪府教育センター附属高等学校、府立布施北高等学校の4名による対

Children's Views & Voices 副代表の中村みどりさんより、こどもアドボカシーについて、子どもの権利や社会的養護の動向から、こどもたちにとって相談しやすい人や環境、こどもの声を聴く姿勢について等のご講演をいただいた。

子どもたちがさまざまな不安と生きづらさを抱える中で、子どもの最善の利益を考えながら、いかに子どもたちの心の声を聴き、子どもに寄り添った支援をしていくか、支援者に必要な視点について学ぶことができた。大人はつい、背景までは見えにくい言語による表現だけを聞き取りがちである。子どもの心の声を聴くための対話の重要性や、大人の都合に合わせて子どもが置き去りにされていないか、大人として気をつけなければならないと感じた。



後半は、学校現場で児童生徒を取りまく困難な課題についての意見交流を行った。最後に、社会的養護の中で育った当事者の方のお話で、「過剰適応の子ども等、大丈夫そうだと思われる子どもも、内面にしんどさやつらさを抱えていて、話を聞いてほしいと感じている。少しの声かけでもかまってもらえることがうれしい。学校の先生に期待することは大きい。」と話されていたことが印象的だった。学校現場でもサポートの必要な子どもに注視してしまい、他のサポートの必要な子どもの声を後に回してしまっていることがないか気を配りつつ、子ども一人ひとりの声を聴き、寄り添っていききたい。

第3分科会

スマホ時代を生きる 子どもたちへの支援

講師：富田 幸子さん
(ソーシャルメディア研究科チーフ研究員)



「スマホ時代を生きる子どもたちへの支援」について富田幸子さんにご講演いただいた。スマホを操り、インターネットを利用する生活から私たちはもう戻れない。インター

ネットを利用する層は年々低年齢化し、受動を含むと2歳で62%にもものぼると話された。私たちはスマホやインターネットを「使わない」のではなく、「賢く使う」ことを学ばなければならない。しかし大人が子どもに教えるより早く、子どもたちは新しい使い方を編み出して使いこなしているのが現状である。富田さんの所属するソーシャルメディア研究会は大学生が教える側に回り、インターネットの“今”を把握しておられるのが印象的であった。

ネット問題は子どもの問題でも大人の問題でもなく、社会全体の問題である。他律から自律へシフトできるよう全員で社会を作っていかなければならない。インターネットの話題を通じて大人と子どもの、あるいは教職員と生徒の関わり方を考えさせられた時間であった。



府立人研 大阪府立学校人権教育研究会

〒533-0024

大阪市東淀川区柴島1-7-106

府立柴島高等学校内

(通送便は「府立人研」とお書きください。)

TEL・FAX 06-6324-3822 (直通)

(お電話の場合は、火曜日をお願いします。)

E-Mail furitsujinken@nifty.com

(お問い合わせは、なるべくメールをご利用ください。)

U R L <http://furitsujinken.in.cocacn.jp/>



↑ 府立人研 HP
ぜひチェックしてください

* 「府立人研通信」の掲示・配布をお願いいたします。
各校の人権教育の充実にお役立ていただけましたら幸いです。*

